

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問1～10）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。 ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問1 シラバスに沿って授業を行えた。

①:14 (74%) ②:4 (21%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:1 (5%)

設問2 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:12 (63%) ②:5 (26%) ③:2 (11%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問3 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:7 (37%) ②:11 (58%) ③:1 (5%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問4 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:12 (63%) ②:5 (27%) ③:1 (5%) ④:0 (0%) 未回答:1 (5%)

設問5 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:7 (37%) ②:11 (58%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:1 (5%)

設問6 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:9 (47%) ②:9 (47%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:1 (6%)

設問7 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①:8 (42%) ②:6 (32%) ③:4 (21%) ④:0 (0%) 未回答:1 (5%)

設問8 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:7 (37%) ②:6 (32%) ③:4 (21%) ④:1 (5%) 未回答:1 (5%)

設問9 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:10 (53%) ②:7 (37%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:2 (10%)

設問10 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:10 (53%) ②:7 (37%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:2 (10%)

B（問 11～15）：FD 活動についてお尋ねします。

設問 11 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 4（21%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 13（68%）
- ③他大学の FD 活動の視察： 1（5%）
- ④その他： 2（10%）

設問 12 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 6（32%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 13（68%）
- ③他大学の FD 活動の視察： 3（16%）
- ④その他： 1（5%）

設問 13 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、 回答：11 クラス（順不同）

- [1] 学生同士話し合う時間を増やした。
- [2] この科目は学内外のフィールドを活用するが、昨年度からは土曜日の 1 日を使って住吉フィールドでも実施している。そのために実習道具などの整備を行い、今年の実施内容は大幅に改善された。
- [3] 難易度の調整及び、グループワーク及び見学先を変更した。
- [4] 講義の基本構成は昨年度とほぼ同じだが、学生に「ベンチャービジネス」に興味を持ってもらうように、できるだけ分かりやすく、かつ具体的な事例（地域の事例を含む）を織り交ぜて話すように心がけた。
- [5] 毎回の授業で提出させるミニレポートに記入された質問には、次の授業で全て回答した。
- [6] 学生になじみのない課題であるので、身近に感じるよう、わかり易いよう工夫した。また、より知識を求める声もあったことから、その点に配慮した。
- [7] “担当教員紹介の時間に授業と関連する自身の研究上の発見を説明する。レポート採点后、最後の授業ですぐれたレポートの例や改善すべき点を詳しく紹介した。
- [8] 授業のはじめに、全員が、全体の活動の中で自分の活動をしっかり見通し、スムーズに活動に入るための時間を設定した。同じく、授業のおわりに、全員が、本時の活動を振り返るだけでなく、次時の活動に対する希望や期待を共有する時間を設定した。
- [9] 前年度（まで）の授業で出た意見・感想等を提示し、今年度の受講生の考えを確認しながら授業を進めた。
- [10] 昨年よりも講義をゆっくり行った。
- [11] 授業時に提示するパワーポイント資料や配布資料を改善し、穴埋め問題への記入時間を十分にとるようにした。

設問 14 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 6 クラス（順不同）

[1] 今回は木花フィールドの水田で行う予定であった田植えが雨天のために実施が困難で、水田での講義と生物観察に内容を変更したが「田植えを行いたかった」と感想に書いた学生が何人かいた。天候はどうしようもないが、実施内容の改善には努めたいと思う。

[2] 本講義は、昨年度初めて開講され、今年度が2年度目の開講である。昨年度と同様に、担当は地域資源創成学部の日生であるが、同じく地域資源創成学部の土屋有先生と共同で授業を行った。授業はお互いの担当回を決めて分担して行ったが、毎回2名とも講義に参加し、時にはコメントを求めたりして、「2人で講義を行っている感」を意識して作り出した。ベンチャービジネスは「活きた」分野であるため、昨年度と同様にアクティブラーニングを積極的に取り入れた。具体的には、外部講師として、宮崎県内で事業活動を行っている起業家（油津でゲストハウスを開いた奥田氏）と投資家（宮崎太陽キャピタル）を招へいし、学生とのディスカッションを行いながら授業を進めた。また、基礎教育重点配分経費を活用させていただき、市中心部のベンチャー企業2社（リブセンス・宮崎オフィス、サーチフィールド・宮崎オフィス）を訪問した。昨年度と同様に学生にはとても好評だった（当日のアンケート集計中）。講義の最後には、学生を9グループに分けて、それぞれのグループで興味を持ったベンチャー企業についてプレゼンテーションを行った。昨年度から受講者が増えたため、合計9つのグループとなった（昨年度は8グループ）。発表時間は短くなってしまったが、それぞれのグループで自ら「ベンチャービジネス」とは何かを考え、具体的な会社の事業や発展段階を調べることによって、シラバスで掲げたベンチャービジネスに対する基礎理解がより深まったと考えている。今年度、大学でビジネスプランコンテストが初めて開催される。前期の講義はまさに時宜を得たものであり、興味を持つ学生も多かった（興味を持つだけでなく、受講者で実際に応募した学生グループも複数ある）。コンテストの案内や実際の指導については、土屋先生が大きな役割を果たした。”

[3] 向上心は旺盛であるが能力を身につけ、伸ばす方法がわからず戸惑っている一部の学生をターゲットに内容を構成している。その点が授業の長所であり短所である。”

[4] （評価できる事項） Web-class のアンケート機能を活用し、授業最後に理解度を確認する簡易アンケートや自由記述での学生からのフィードバックを得るようにし、次の講義の設計や授業内容を調整して学生の深い理解を促すようにした結果、講義回数を追うごとに学生の習得度が向上した。

（反省事項）受講者96人全員の進捗度や理解度に幅があり、アクティブ・ラーニングやコンピューターを使ったデータ入力、集計等の演習が困難であり、補講を度々行ったが、理解度が低い学生はあまり補講にも参加しないなど、効果に限度があった。

[5] 初回の受講調整で、これまでは事情を説明することで、学生が自分で判断し、他の科目に移る形を取っていたが、今年度は不本意ながら、初めてくじ引きによる方法を取るようになった。くじ引きによる方法は取りたくなかったため、くじ引きに至るまで40分程度の時間を要し、きちんと事前に登録して受講している学生にとっても、くじ引きで他の科目に移動する学生にとっても、好ましくない状況になったことは反省すべき点であった。次年度以降も、いきなりくじ引きは行いたくないが、どうすればよいのかは分かっていない。

[6] 特になし

設問 15 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： なし

設問 16 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 15 (79%) ②いいえ： 3 (16%) 未回答： 1 (5%)

問 16 で「はい」の方は問 17、18 にお答えください。

設問 17 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

- ①聞いて理解する： 6 (32%)
- ②読んで理解する： 6 (32%)
- ③自分の考えをまとめて話す： 6 (32%)
- ④自分の考えを文章にまとめる： 9 (47%)
- ⑤討論する： 6 (32%)
- ⑥皆の前でプレゼンテーションする： 5 (26%)
- ⑦その他： 2 (11%)

設問 18 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 11 クラス（順不同）

[1] 毎回、ミニレポートを提出。

[2] 設問 14 で記載の通り、講義では後半にグループワークを行い、最後 2 回の講義ではグループ事でプレゼンテーションを行った。所属・学年が異なる学生間でディスカッション、発表を行うことで、コミュニケーション能力を高める機会を提供できたと考えている。

[3] グループディスカッション

[4] グループディスカッション（ほぼ半数以上の回で実施）。科目内容に沿った、サマープログラム短期留学生との交流企画のグループ単位による立案・計画・実施。”

[5] 当日配布した文献についてグループで内容を共有し、与えられた関連の課題についてディスカッションし、グループが到達した結論を代表がクラスで報告するという取り組み。定期試験のレポートを提出前にグループで互いに読み、評価し、長所、短所についてディスカッションし、わかりやすく深く考察したレポートの書き方について発見したことをグループの代表がクラスですするという取り組み。

[6] 毎回、新しいグループで、本授業の課題（経験の有無に関係なく、参加者全員に十分な身体活動を保証する）を解決することを求めた。

[7] 内容として含まれているというよりも、授業の方法として、グループワークを取り入れたたり、学生の発言・反応を求めたりするなどすることを、コミュニケーション能力の育成を図った。

[8] 講義の初回に計 44 (40) ページのプリントを渡し、これを読んで理解の助けになるようにした。・・・3 クラス

[9] 受講者多数のため直接コミュニケーションを取ることは困難だが、リアクションペーパーを活用するなどの工夫をしている。

D (問 19～22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

教員 FD 活動レポート（基礎教育）H29 前期 まとめ 学士力発展

設問 19 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい： 7 (37%) ②いいえ： 10 (53%) 未回答： 2 (10%)

問 19 で「はい」の方は問 20～22 にお答えください。

設問 20 その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①1～5回： 4 (21%) ②6～10回： 1 (5%) ③11～15回： 1 (5%)

未回答： 1 (5%)

設問 21 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化： 3 (16%) ②政治・経済・産業： 3 (16%) ③自然環境・フィールド体験： 3 (16%)

④その他： 3 (16%)

設問 22 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 3 クラス

[1] 宮崎地域の農業、畜産業、林業、水産業を実際に体験する。

[2] 設問 14 に記載の通り、宮崎県で事業活動を行っている起業家と投資家に講義を行っていただいた他、市中心部の IT ベンチャー企業 2 社を訪問した。これらの活動を通じて、宮崎という「地域」に対する関心も高めることができたと考えている。

[3] 授業内で県内博物館に関する情報を必ず取り上げている。また、県内博物館の一次資料でもある宮崎県の文化財について紹介及び解説する時間を設けている。